



大学入学共通テストの理想と現実 —改革の理念を問う—

中村高康（東京大学大学院教育学研究科教授・大学入試学会副理事長）

2024年9月29日 大学入試学会企画シンポジウム（於：東北大学）

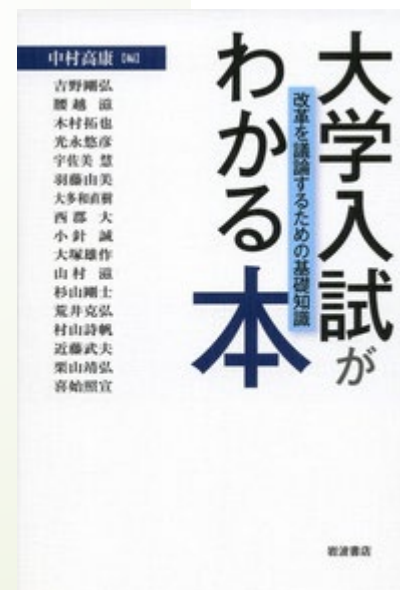
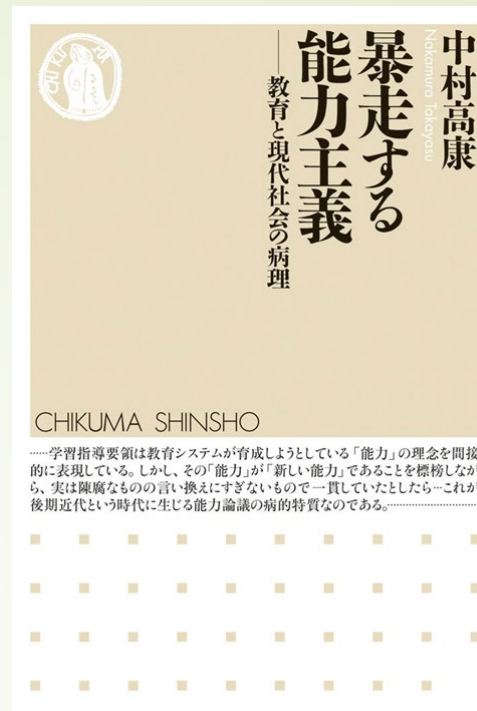
2

0. はじめに

自己紹介 専門は教育社会学

- ・これまでの研究...教育と選抜
 - ・大卒労働市場
 - ・大学入学者選抜制度の変容
 - ・国際比較から見た日本の選抜システムの特質
 - ・高校生の進路選択の過程と構造
 - ・メリトクラシー（能力主義）の理論的研究
 - ・社会階層と教育機会
 - ・高校入試と内申書
- 等々...

➡本日も、マクロな観点から考える

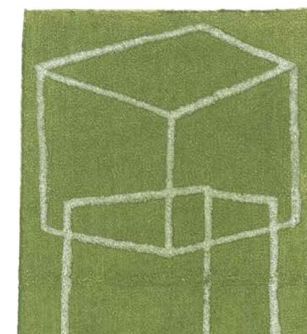


ま新書
337

シリーズ 少子高齢社会の階層構造 [監修] 白波瀬佐和子

1 人生初期の階層構造

[編] 中村高康・三輪 哲・石田 浩



若者たちが直面する
現代日本の階層構造とは

教育、就職、結婚、出産など、人生の早い時期に経験されるライフイベントから、どんな階層構造が見えてくるのか？ ——「社会階層と社会移動全国調査」(SSM調査)の最新成果をもとにした新シリーズ第1巻。

東京大学出版会



0. はじめに

■ 本日の内容

1. 大学入学共通テスト導入の意図
2. 大学入学共通テストの理念と背景
3. 弊害 1 : 3 要素の不自然な一気通貫性の発生
4. 弊害 2 : 理念を盛り込もうとするあまりの過重負担の発生
5. まとめ : 教育課程と共通テストの関係をゆるやかに考える

1. 大学入学共通テスト導入の意図

■ 本シンポジウムの趣旨説明

「記憶力の評価に偏頗したセンター試験に対して、思考力を測ることを意図した問題の導入が目的とされたが、実際には何が起きているのか。...」

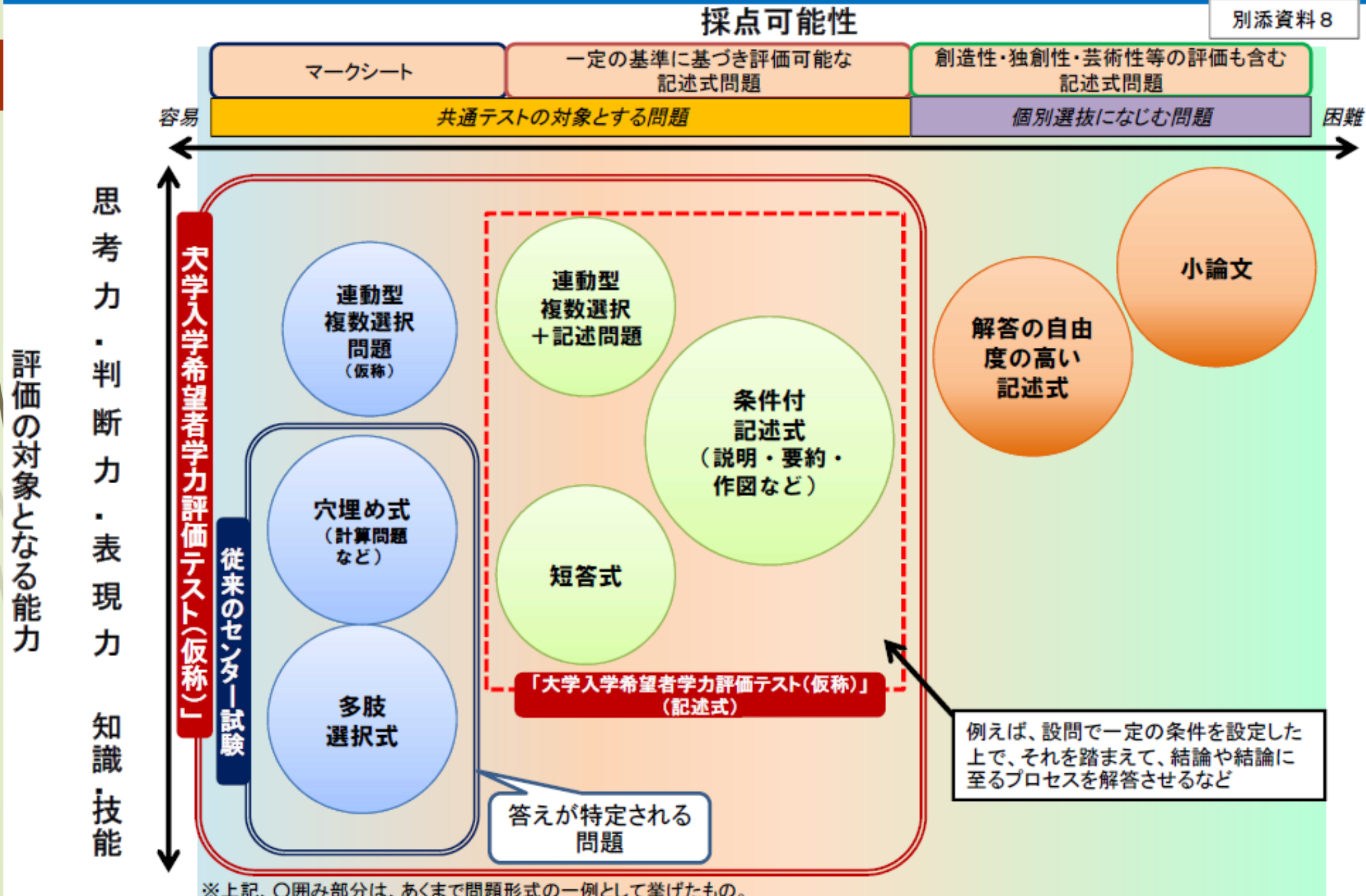
記憶力 vs. **思考力** + **主体性** (この構図が正しいかどうかは別として)

これは基本的に一連の高大接続改革の基本トーンでもあった。

「我が国が成熟社会を迎え、**知識量のみを問う「従来型の学力」**や、主体的な思考力を伴わない協調性はますます通用性に乏しくなる中、現状の高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜は、**知識の暗記・再生に偏りがち**で、**思考力・判断力・表現力**や、**主体性を**
持って多様な人々と協働する態度など、**真の「学力」**が十分に育成・評価されていない。」(中央教育審議会答申(2014)『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について』, p.3)

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とそれらを評価する方法のイメージ例（たたき台）

別添資料8



『高大接続システム改革会議「最終報告」』
(2016) 別添資料8より

1. 大学入学共通テスト導入の意図

■ なぜかくも知識と思考を分断する発想になるのか。

➡このような理念について批判的検討が十分なされなかったことが、現状の大学入学共通テストの課題（弊害）を生んでいる可能性を指摘したい。

この発表では、その理念のおおもとにある学力の3要素（資質・能力の3つの柱）について確認する。そのうえで、現在生じている弊害を2点に絞って検討し、最後にそれを踏まえての考察を加える。

2. 大学入学共通テストの理念と背景

学力の3要素は、以下の溝上氏の整理が参考になる。

- ・ 学力の三要素は、「ゆとり」か「詰め込み」かの二項対立的な議論を回収するかたちで、2007年6月に学校教育法も改正して示したものである。下記のように簡潔に示されることが多い。
 1. 基礎的な知識・技能
 2. 思考力・判断力・表現力等の能力
 3. 主体的に学習に取り組む態度
- ・ 学校教育法に基づく学力の三要素は小学校の教育に向けてのものである。高校教育に向けてのものは、学校教育法で規定される学力の三要素に基づき、高大接続改革答申で次のように示されている。
 1. 基礎的な知識・技能
 2. 思考力・判断力・表現力等の能力
 3. 主体性・多様性・協働性
- ・ 新学習指導要領では、児童生徒の「何ができるようになるか」という観点を、学力の三要素をふまえて「資質・能力の三つの柱」として示している。資質・能力は、一般的な能力や技能・態度よりも広いもので、イコール「学力」と言い換えてもいいものである。
 1. 生きて働く「知識・技能」の習得
 2. 思考力・判断力・表現力等
 3. 学びに向かう力・人間性等

2. 大学入学共通テストの理念と背景

■ 学力の3要素については、いろいろな批判がありうる。

例えば、南風原（2019）は...

- ・ 知識のうえに思考があるという一方向的な関係を仮定
- ・ 思考力と判断力は具体性に欠け、とらえどころがない
- ・ 知識とは別に思考力や判断力を評価するのは困難
- ・ 「思考力・判断力・表現力」は一つの要素とはいえない
- ・ 「態度」は学力そのものの要素なのか ,etc.

➡ 「無批判に「学力の3要素」を連呼し、すべてその枠組みで整理しようとするのは、思考停止のようにすら思える」（同、p.6）

もう一つ強調しておきたいのは、学力の定義が法律に書き込まれているという事態

2. 大学入学共通テストの理念と背景

➡ 学校教育法第三十条

第三十条 小学校における教育は、前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第二十一条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

②前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な**知識及び技能**を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な**思考力、判断力、表現力**その他の能力をはぐくみ、**主体的に学習に取り組む態度**を養うことに、特に意を用いなければならない。

➡これが教条化しているということについて、問題意識を持つ必要がある。以下ではその弊害のパターンを見てみる（教科の中身以外で）。

弊害 1 : 3 要素の不自然な一貫通貫性の発生

- ➡ 高校関係者には自明のことだが、大学関係者には自明ではない「学習指導要領」の中身
- ➡ 誰でもアクセスできるが、それをいざ開いてみると...

(6) 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の事項に配慮すること。

ア **知識及び技能**については、他教科等及び総合的な探究の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。

イ **思考力、判断力、表現力等**については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。

ウ **学びに向かう力、人間性等**については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。

弊害 1 : 3 要素の不自然な一貫通貫性の発生

➡ 「探究」はまあわかる。が、一般の科目はどうなっているか？

B 近代化と私たち

(1) 近代化への問い

交通と貿易，産業と人口，権利意識と政治参加や国民の義務，学校教育，労働と家族，移民などに関する資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような技能を身に付けること。

(ア) 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 近代化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現すること。

(2) 結び付く世界と日本の開国

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 18 世紀のアジアや日本における生産と流通，アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に，18 世紀のアジアの経済と社会を理解すること。

(イ) 産業革命と交通・通信手段の革新，中国の開港と日本の開国などを基に，工業化と世界市場の形成を理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 18 世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して，主題を設定し，アジア諸

『高等学校学習指導要領』（平成30年告示）
「歴史総合」（57頁）

弊害 1 : 3 要素の不自然な一貫通貫性の発生

- 次は指導要録（在学する児童生徒の学習の記録として作成するもの＝成績原簿）

観点別
学習状況

様式 2（指導に関する記録）

生徒氏名		学 校 名		区分	学年	1	2	3	4
				ホームルーム					
				整理番号					

各 教 科 ・ 科 目 等 の 学 習 の 記 録															
各 教 科 ・ 科 目 等		第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			修得単位数の計	備 考
		学 習 状 況	評 定	修 得 単 位 数	学 習 状 況	評 定	修 得 単 位 数	学 習 状 況	評 定	修 得 単 位 数	学 習 状 況	評 定	修 得 単 位 数		
教科等	科目等	況別	定	数	況別	定	数	況別	定	数	況別	定	数		
国 語	現代の国語														
	略														
	歴 史														
	地 理														
	公 民														
各 科 数															

科 設															
総合的な探究の時間															
小 計															
留 学															
合 計															

※「観点別学習状況」欄には、左から「知識・技能」（職業に関する各教科については「知識・技術」）、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を記入

「観点別学習状況」欄には、左から「知識・技能」（職業に関する各教科については「知識・技術」）、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を記入

高等学校（全日制の課程・定時制の課程）生徒指導要録（参考様式）様式 2

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/nc/_icsFiles/afieldfile/2019/04/09/1415206_3_1.pdf

弊害 1 : 3 要素の不自然な一気通貫性の発生

➡ 次は、大学入学者選抜実施要項

能力・意欲・適性等の評価・判定に当たっては、アドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する特に重要な以下の三つの要素のそれぞれを適切に把握するよう十分留意する。その際、入学後の教育との関連を十分に踏まえた上で、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。なお、高等学校の学科ごとの特性にも配慮する。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能（以下「知識・技能」という。）
- ② 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（以下「思考力・判断力・表現力等」という。）
- ③ 主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

弊害 1 : 3 要素の不自然な一貫通貫性の発生

■ 次は、アドミッション・ポリシー

...これも大学入学者選抜実施要項に記載あり。

「アドミッション・ポリシーにおいて、抽象的な「求める学生像」だけではなく、入学志願者に高等学校段階までにどのような力を培うことを求めるのか、そうした力をどのような基準・方法によって評価・判定するのかなどについて可能な限り具体的に設定する。その際、第1に示す三つの要素については、各大学の特色等に応じて具体的な評価・判定方法や要素ごとの評価・判定の重み付け等について検討の上、それぞれについて適切に評価・判定するよう努める。」（令和7年度大学入学者選抜実施要項、p.1）

➡その結果どうなっているかを次に例示。



を期待したい。

入学者選抜の方針

本学では、国内および世界のあらゆる地域から学生を迎え入れる。入学者選抜では、本学で学びたいという高い勉学意欲と知的好奇心、および入学時点で最低限必要となる水準の知識・技能の有無を確認する。さらに入学後の学修の基礎となる論理的思考力・判断力・表現力、および主体性・協働性を選抜において確認する。

評価方法の比重

本学は、入学者に、本学の教養教育および専門教育に耐えうる、最低限の知識を有していることを前提として入学者選抜を実施する。その上で、全学ならびに各学部の選抜の方針に基づいて、多様な学生を迎え入れるための多様な試験制度を設定する。たとえば、知識・技能、論理的思考力・判断力・表現力、および主体性・協働性のいくつかにおいて、優れた資質を備えている者、あるいはそれらを一定水準で満たし、かつ文学・芸術・スポーツなどの分野で際立った資質や獨創性を備えている者を、入試制度ごとに一定の割合で迎え入れる。

学力の3要素について

帝京大学の入学者選抜では、入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、「学力の3要素」を以下のように多面的・総合的に評価します。

〈学力の3要素〉

①知識・技能

物事を考え、課題解決をするための基本であり、正確に身につけることが学びの土台となります。

②思考力・判断力・表現力

自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に正確に伝えるための力です。

③主体性・多様性・協働性

自らの考えを持ち、他者の考え方も理解し、協働しながら物事に取り組むことのできる力です。

選抜区分	評価ツール 学力の3要素	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
		調査書	志望理由書 ※1	学校長推薦書	基礎能力適性検査	面接 ※2	英語外部試験成績 ※3	簿記外部試験成績 ※3	優遇資格 ※3	共通テスト ※3
総合型	知識・技能	●	—		●	—	●	●	●	●
	思考力・判断力・表現力	—	●		●	●	—	—	—	●
	主体性・多様性・協働性	●	●		—	●	—	—	—	—
学校推薦型	知識・技能	●		○	●	—	●		●	
	思考力・判断力・表現力	—		○	●	●	—		—	
	主体性・多様性・協働性	●		○	—	●	—		—	

（注）「●」は、評価する項目を指します。「○」は学校長推薦書に記載のあった項目を評価します。

※1 医学部については活動報告書となります。

※2 医学部総合型選抜についてはグループディスカッションを含みます。

※3 一部の学部学科を除き実施します。

帝京大学『入学試験要項2025
総合型選抜・学校推薦型選抜・広
域多摩地域密着型奨学選抜』より
[https://www.teikyo-
u.ac.jp/application/files/2417/
2499/0172/01_2025.pdf](https://www.teikyo-u.ac.jp/application/files/2417/2499/0172/01_2025.pdf)

2. 各学部の「入学者受入れの方針」

(1) 人文学部

信州大学人文学部の教育目標は、専門領域についての深い知識と、領域横断的な課題を解決する能力を兼ね備えた人材、即ち、「実践知」を基盤に人間に関わる様々な事象に対し批判的思考力を駆使することのできる人材の育成です。そのために高等学校等を卒業するまでに学習するすべての教科についての基礎知識を習得しておくことが必要です。

本学部で学ぶために、以下のことを身につけておいてください。

		該当する「学力の3要素」		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度
1.	高等学校等における学習内容についての幅広い理解	○	○	
2.	人文学諸分野の基礎となる国語、地理歴史、公民、外国語を中心とした高等学校等での学習内容への深い理解	○	○	
3.	人間、社会、歴史、文化、言語、文学、情報、芸術、自然、数理など、考察対象や考察方法への常日頃からの強い興味や関心	○	○	○
4.	人間、社会、歴史、文化、言語、文学、情報、芸術、自然、数理などを探究し表現するための基本となる、思考力とコミュニケーション能力		○	○

上記の素養を持つ学生を幅広く選抜するために、本学部は各選抜の学生募集要項に示す入学試験を実施します。

信州大学『令和7年度入学者選抜要項』より

https://www.shinshu-u.ac.jp/ad_portal/selection/uploads/R07senbatsuyoukou.pdf

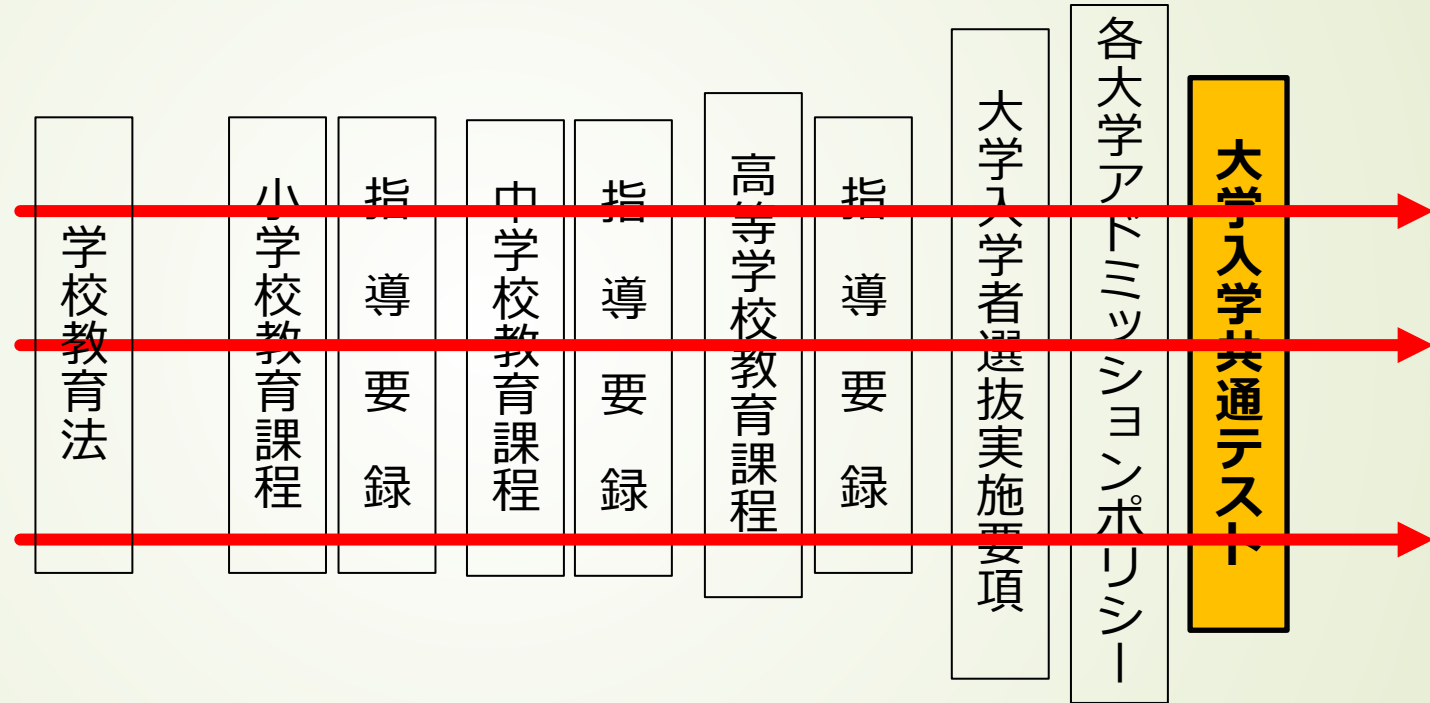
弊害 1 : 3 要素の不自然な一貫通貫性の発生

学力の3要素

知識・技能

思考力・判断力・
表現力

主体的態度



非常に美しく整理された形に。しかし、「学力の3要素」という認識がもし正しくない理念だったとしたら...それで一貫通貫させることの意味は...

4. 弊害2：理念を盛り込もうとするあまりの過重負担の発生

- 時間の関係もあるので、こちらは簡単に触れるだけに止めるが...
- 今年から始まる新課程の大学入学共通テストは受験生の負担増が指摘されている。

表 2025年度大学共通テストにおける24年度（旧課程）対比での負担増

教科	年度	試験時間	科目（標準単位数／出題数）
国語	25	90分	近代以降の文章（3題）、古文（1題）、漢文（1題）
	24	80分	近代以降の文章（2題）、古文（1題）、漢文（1題）
地理歴史	25	60分	総合科目（2単位）＋探究科目（3単位）＝（5単位）
	24	60分	A科目{2単位}、B科目{4単位}
地理歴史 公民	25	60分	{歴史総合（2単位）、地理総合（2単位）、公共（2単位）} → 3科目から2科目選択（4単位）
公民	25	60分	公共（2単位）＋{倫理（2単位）or政治・経済（2単位）}＝（4単位）
	24	60分	倫理（2単位）、政治・経済（2単位）、現在社会（2単位）、倫理、政治・経済（4単位）
数学②	25	70分	数学Ⅱ（4単位）＋{数学B（2単位）、数学C（2単位）の4題から3題選択}＝（7単位）
	24	60分	数学Ⅱ（4単位）＋{数学B（2単位）の3題中2題選択}＝（6単位）
情報	25	60分	情報Ⅰ（2単位）
	24		

- ・ 情報の追加
- ・ 国語... 1題増（10分増）
- ・ 数学②... 1題増（10分増）

...

...

...

...

参考：河合塾の「全統共通テスト模試」は朝からスタートして夜20時10分まで！

←石原（2024）

まとめ：教育課程と共通テストの関係をゆるやかに考える

- 「理念はいいけれどやり方が…」という判断は正しいか（理念そのものが問題含みである可能性(中村編2020)）
- 教育された内容をすべて試験で問う必要はない（入試を手段として教育改革をしようとしてもうまくいかない(山村他2019)）
- 試験ではなく教育で対応するという選択もあり（選抜から接続へ（荒井・橋本2005））
- 受験生の負担をもっと考慮すべき

➡教育課程と共通テストの関係をもっとゆるやかに考えるべきでは？

参考：次期学習指導要領に向けた議論/学習指導要領廃止論？



文献

荒井克弘・橋本昭彦（編）(2005).『高校と大学の接続—入試選抜から教育接続へ』

玉川大学出版部

南風原朝和(2019).「大学入試改革の目玉がはらむ問題」『IDE現代の高等教育』

No.608 ,4-9

石原賢一(2024).「総まとめ 2025年度新課程対応入試」『月刊高校教育』2024年9

月号, 22-25

中村高康編(2020).『大学入試がわかる本—改革を議論するための基礎知識』岩波書

店

山村滋・濱中淳子・立脇洋介(2019).『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか

—首都圏10校パネル調査による実証分析』ミネルヴァ書房